

第2回吉田高校学校運営協議会

令和5年12月1日（金）
場 所 吉田高校朝日子ホール
開 会 13時30分

次 第

司会 野澤 俊英

- 1 開会の言葉（司会）
- 2 学校長あいさつ
- 3 学校運営協議会会長あいさつ
- 4 報告事項
 - (1) 教育活動報告
 - ①理数科「理数探究」発表会について（理数科主任 藤原より）
 - ②学園祭「蒼風祭」について（生徒会主任 萱沼より）
 - ③部活動関係（関東大会、全国大会）について（生徒会主任 萱沼より）
 - ④富士山学（総合的な探究の時間）における地域連携関係について（総合研修主任 村松より）
 - ⑤地域と連携した防災教育の取組について（教頭 野澤より）
 - (2) 地域とともにある学校づくり推進フォーラム（文科省開催）について（教頭 野澤より）
- 5 議事（議長 鶴田清司会長）
 - (1) 令和5年度第1回学校評価報告と第2回学校評価に向けての対応（総務主任 志村より）
 - (2) 校則の見直しについて
 - ・校則協議会からの提案及びポロシャツの導入について（生徒指導主事 藤城より）
 - (3) 令和6年度教職員の採用及び任用について（校長 権太より）
 - (4) その他
- 6 連絡事項
 - (1) 次回学校運営協議会開催日について
 - (2) その他
- 7 閉会の言葉（司会）

教育活動報告

① 理数科 2 学年 理数探究発表会について

開催期日 10月11日(水) 18日(水) 午後1時30分より
 開催場所 本校視聴覚
 参加者 理数科1.2年(80名)
 2年生：研究発表者・聴講者
 1年生：聴講者・運営補助
 静岡県立富士高校理数科1年生(40名) 11日にリモート参加
 発表方法 発表時間10分間以内 質疑応答時間5分以内
 グループ毎に発表を行う
 グループ員全員が必ずプレゼンテーションをおこなう。
 プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を使用

研究協力(8機関：令和5年度)

- ①富士山科学研究所 ②山梨県産業技術センター富士技術支援センター
 ③健康科学大学 ④昭和大学
 ⑤山梨県立産業技術短期大学校 ⑥帝京科学大学
 ⑦富士山の銘水株式会社 ⑧富士癒しの森研究所

研究内容と指導担当

班	所属	研究テーマ
①	富士技術支援センター	新規機能性付与による繊維製品の高品質化
②	富士山科学研究所	統計を用いて山梨の状況を把握する
③	富士山科学研究所	さまざまな揺れの計測
④	健康科学大学	腎臓を学ぶ
⑤	健康科学大学	ADLケアの新しい使用方法や効果について提案する
⑥	昭和大学	ナノサイズカプセルでくるんだサプリメントの構築
⑦	昭和大学	昭和大学富士吉田キャンパスにおけるカメラトラップ法を用いた生物相の調査
⑧	昭和大学	生理学を体感しよう
⑨	山梨県立産業技術短期大学校	機械系のためのメカトロニクス技術
⑩	帝京科学大学	点と線からなる図形(グラフ)の探求
⑪	帝京科学大学	身体動作のバイオメカニクス
⑫	帝京科学大学	骨粗鬆症について考える
⑬	富士山の銘水株式会社	硬水と軟水の違いについての理化学的及び性質的な調査
⑭	富士癒しの森研究所	森林における野生動物の活動特性を探る

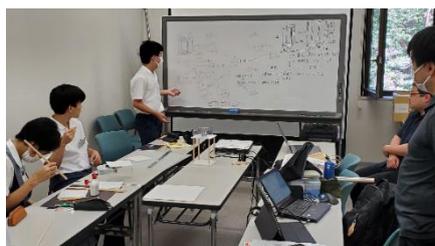
『理数探究』とは、科学及び数学に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技能の深化、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てることを目標とする理数科専門科目であり、理数科の必修科目である。

現在の3年生までは1年時終了時から2年時9月末までの活動を行っていたが、今年度の2年生からは「理数探究」という週1時間の科目になり、さらに専門的な探究活動が求められ、卒業までの3年間を通じて、系統的に探究活動を行っていく、その最初の学年になる。1年時には前半に課題設定や文献研究の方法など一般的な探究活動の手法について学び、後半は仮に設定したテーマに対して自分で実験の計画を立て、データを取り、分析・考察を行うという自然科学での探究のスキルを学んだ。

2年時の夏休みを利用して地元の企業、研究所、大学等に協力を仰ぎ、各機関に生徒が赴き、そこで研究者の指導の下で実験、分析などの研究に実際に取り組みさせていただいているが、それは「課題研究」時代から踏襲している。今年度は毎週6校時が授業に割り当てられていたため、夏休み以降も近隣の研究施設などの場合は、次の7校時と合わせて研究者の方を訪問したり、学校に来ていただいたりして、更に追加で指導を受けることが可能になった。

尚、粟井英朗環境財団助成事業として実施し、研究に関わる経費の助成を受けている。

また、12月には富士高校・理数科の理数探究発表会に1、2年生で参加する予定だが、その中で本校の14の班のうちの優れた班が代表で発表を行う予定である。



「卒論・修論発表会」について

8月26日（土）理数科の卒業生3名が訪れ、文理選択や学部・学科選択を控えた1年生を対象に、学生時代に行った研究内容について、1年生にも分かりやすく話していただいた。これによって、1年生は大学進学後の学問・研究のあり方を理解し、進路選択のための材料を得ると同時に、理数科での学習が進学後にどのようにつながっているのかを知ることができた。

今年度の講師は以下の4名

- ・澤田陸斗（27期）東京工業大学工学院システム制御系学士4年
- ・香崎飛竜（25期）東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻修士2年
- ・長田のぞみ（23期）甲府共立病院勤務（山梨大学医学部医学科卒）
- ・安藤智貴（23期）ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
（早稲田大学大学院 基幹理工学研究科 表現工学専攻卒）

② 学園祭「蒼風祭」について

開催日	令和5年6月30日（金）、1日（土）
内容	当日実演項目 ミュージカル クラス企画 合唱 文化部発表 展示項目 ガラス画 クラス旗・ブロック旗 文化部発表
方法	2日間とも、3年生の保護者を対象に午前中のみ公開、全保護者を対象に午後公開した。

③ 部活動（全国大会・関東大会出場）について

1 全国大会参加部と成績（入賞、入選に限る）

高等学校体育連盟、高等学校文化連盟関係

★全国高等学校選抜体育大会

- ・自転車競技部
3kmインディヴィデュアル・パーシュート 第2位 望月蓮
- ・ウエイトリフティング部
男子102kg級クリーン&ジャーク 第3位 土橋寛太

★全国高等学校総合体育大会

- ・ウエイトリフティング部
男子102kg級トータル 第6位 土橋寛太
- ・ボート部
男子ダブルスカル 第4位 土橋洸太・渡邊大河

- ・自転車部
男子ロードレース 第4位 男子3kmパーシュート 第6位 望月蓮

★かごしま特別国民体育大会

- ・陸上競技部 少年男子B走幅跳 優勝 太田倅陽

★全国高等学校総合文化祭

- ・放送部

2 関東高等学校大会（出場部及び優勝者名）

- ・ウエイトリフティング部 ボート部、 陸上競技部、 弓道部、 自転車部

④ 富士山学（総合的な探究の時間）における地域連携関係について

< 1 学年 >

2023 年度 吉田高校 地域講演会 講師一覧

	テーマ	担当課	担当者
5 月	富士吉田市全体について	富士吉田市役所 企画部 地域振興・移住定住課	企画部部長 渡辺一史様 地域振興・移住定住課 課長補佐 羽田輝様
6 月	富士吉田市の観光	富士吉田市役所 富士山課	富士山課 課長 勝俣美香様
7 月	転倒予防都市ふじよしだ と健康づくり	富士吉田市役所 健康長寿課	健康長寿課 保健師 佐藤多恵様
8 月	富士吉田市の防災・火山 対策	富士吉田市役所 安全対策課 富士山火山対策室	安全対策課 防災専門官 守山 龍一様
8 月	富士吉田市 商工振興課 の仕事	富士吉田市役所 商工振興課	商工振興課 渡辺正之様

6 / 2 1 (水) : プロジェクト 2 2 3 (グループ毎本校内各会場)

富士吉田商工会青年部の講師から事例提供を受けるとともに、各グループ企画書にアドバイスを受ける。講師・アドバイザー計 20 名

講師氏名	ジャンル	講演タイトル
渡辺果林	子育て	わがままママのわがままなま
小野利郎	建築	富士吉田の文化
羽田友太	飲食	らーめん屋になるまでと思返し
堀内洋平	染め物	地場産業の技術を魅力に! 地元の産業を現代のマーケティングと絡める仕組みについて
守山龍一	防災	富士吉田市の防災対策
小林純	観光	本町通りを訪れる観光客の現状
天野慎也	観光	観光客に対して出来ることとすべきこと
外川喜彦	空き家	街中にある空き家（ゴミがいっぱい）を有効活用、 オシャレな空間を創り出そう！！
小林恵	介護	生きる ～最後まで自分らしく 最後までその人らしく～
山崎博之	織物	郡内織物の過去・現在・未来



10/4 (水) : 楽問楽学

大学模擬授業。山梨大学・都留文科大学など地域の大学に講義依頼

講座名	出席校・講師	テーマ・授業内容
経済・経営	明治大学	「世界の見え方が変わるのは国際マーケティング論から！ —〇〇×自分=ハイポテンシャルな私—」
国際関係	都留文科大学	「日本と海外の文化的常識の違い —身ぶり、色彩感覚、生活習慣、衣食住」-
教育	山梨大学	今、教師を目指す皆さんへ
看護	山梨県立大学	ひとが生きるということ
薬学	東京薬科大学	ドラッグデリバリーシステム
法学	山梨学院大学	「法律って意外とおもしろい」
医学	山梨大学	あたまがよくなる食事、睡眠、運動、そして勉強
建築	工学院大学	建築と諸芸術の協働によって作られる世界
機械	東京都市大学	制御工学について～ドローンの制御～
生命・環境	山梨大学	ゲノムから見た生物
医療技術 情報	杏林大学 静岡大学	「ヒトの身体運動～身体機能と脳機能の側面から だます AI、だまされる AI」
食物・栄養	女子栄養大学	朝ごはん健康美人～スリムになる食事の秘密～
哲学・心理	専修大学	あなたの明後日を変える学習心理学
物理	慶應義塾大学	私たちの社会を支える電子デバイスの将来

10/11 (水) : RESAS研修～RESASを使って地域課題をみてみよう～ (各教室)

経済産業省の地域経済分析システムの利用について、関東経済産業局の講師による講演



リーサス探求

11/15 (水) : 校外学習 (地域の企業・諸機関)

テーマ毎に地域の企業・諸機関などに赴き、現状などの確認

A グループ : スポーツ・福祉・食 (26名) 【学校にて活動】

- ・ふじさくら FC 講演 (GM・五十嵐雅彦様)
- ・ヨガ体験 (yoganowa・天野智佳様)
- ・食文化講演 (セルバ様)

B グループ : 歴史・文化・環境・芸術 (39名) 【校外活動】

- ・ふじやまミュージアム ～ ふじさんミュージアム ～ レーダドーム

Cグループ：文化・産業・子育て（16名） 【校外活動】
・織物工場（光織物）～ Good old market ～ 子育て支援センター

Dグループ：自然環境・産業（13名） 【校外活動】
・ゴミ拾い（富士山研究所発周辺）～ 富士山の銘水工場

Eグループ：観光・防災・世界遺産・国際（91名） 【校外活動】
・忠霊塔・下吉田駅付近でアンケート～ 富士山科学研究所

Fグループ：交通・働き方・移住/定住（22名） 【校外活動】
・富士急バス～ ドットワーク富士吉田～ 定住促進センター

今後の予定

1 / 2 4（水）：学年発表会（本校）成果物を提示して発表。講師より評価を受ける。

< 2 学年 >

6 / 2 1（水）：プロジェクト 2 2 3（グループ毎本校内各会場）

1 年の報告内容に同じ

1 0 / 1 1（水）：校外学習（地域の企業・諸機関）

テーマ毎に地域の企業・諸機関などに赴き、現状などの確認

①吉田高校周辺（10班、31名）

本町通り商店街（5班）、子育て支援センター（3班）、その他（2班）

②下吉田方面（7班、26人）

個人商店（2班）、忠霊塔（3班）、フードサポート（1班）、給食センター（1班）

③上吉田方面（7班、27名）

個人商店（1班）、市立看護専門学校（1班）、レーダードーム館（2班）、
富士山ミュージアム（2班）、浅間神社（1班）

④河口湖方面（8班、26名）

フジヤマミュージアム（1班）、個人商店（3班）、観光案内所（4班）

⑤医療分野（2班、6名）

開業医（1班）、市立病院（1班）

⑥防災分野（1班、4名）

富士山科学研究所（1班）

⑦学校作業（12班45名）

講師来校インタビュー（2班）、実習（2班）、作業（8班）

ほうとう作りなど

1 0 / 2 5（水）：中間発表（グループ毎本校内各会場）

各グループで設定した探求テーマについて、これまでの成果発表とともに、地域に住む講師から探求のヒントやアドバイスを受ける

→8会場 61グループ

今後の予定

2 / 7（水）：学年発表会（本校）成果物を提示して発表。講師より評価を受ける。

令和5年度 吉田高等学校運営協議会委員

令和5年4月1日

鶴田 清司	都留文科大学名誉教授
井出 智子	元PTA役員 富士山みはらし専務取締役
中村 義仁	PTA役員
高村 明成	PTA役員
高保 裕樹	元吉田高等学校長 同窓生
正木 啓子	山梨大学学生サポートセンターカウンセリング・サポート室職員
堀内 淳	富士吉田市学校教育課長
栗井 晶子	公益財団法人栗井英朗環境財団理事長
萱沼 孝夫	富士吉田市商工会議所青年部直前会長
渡邊 太郎	渡小織物代表
村松 悟	富士見台中学校校長
梶原 正彦	河口湖南中学校校長
権太 正弘	吉田高等学校校長

令和5年度 地域と連携した防災教育の取組

1 目的 本校が地域の防災避難場所に指定されていることから、富士山噴火等の発生に備えて、学校と地域が一体となって防災教育に取り組み防災に対する意識を向上せさせると同時に、地域を大切にする心を育む契機とする。

2 日時 令和5年12月10日(日) 午後14時00分から16時00分

3 場所 吉田高等学校 視聴覚室(北館4階)

4 タイムテーブル

- ① 学校長挨拶
- ② 自己紹介
- ③ 1年生の防災委員によるプレゼンテーション
- ④ プレゼンテーションにもとづくグループディスカッション
- ⑤ 学校と地元自治会及び関係機関との連携の在り方についての検討
～防災を通じて地域を知り、地域を良くする～
- ⑥ 文部科学省安全教育調査官 木下史子氏からの講評
- ⑦ その他

*終了後、アンケートにご協力をお願いいたします。

5 参加団体・参加者

- (1) 文部科学省安全教育調査官 木下史子氏
- (2) 富士吉田市職員
- (3) 地元自治会の代表者
- (4) 学校運営協議会委員(希望者)
- (5) 富士山学防災グループ(2年)および防災委員(1, 2年)の生徒
- (6) 本校関係職員

担当 教頭 野澤 俊英 TEL 0555-22-2540 E mail noztoshi@kai.ed.jp
--

テーマ1 「社会に開かれた教育課程」の実現

② 高等学校における「社会に開かれた教育課程」の実現

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて ～コミュニティ・スクールと「富士山学」の取組～

**発 表 者 山梨県立吉田高等学校 校長 権太 正弘
山梨県立吉田高等学校 教頭 野澤 俊英**

コメンテーター 加藤 智 氏（国立教育政策研究所 教育課程調査官）

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
山梨県富士吉田市	687名	令和3年度	13名	3回	0名

学校教育目標

吉田高校グラデュエーション・ポリシー（吉高GP） → 3年間を通して、以下の8つの力を身につけることを目標としています

- ①自己肯定力 ②傾聴力 ③分析力 ④思考力 ⑤発信力 ⑥想像力 ⑦創造力 ⑧行動力

学校・地域の特徴

創立86年を迎える富士北麓地域を代表する進学校で、地域のリーダー校として期待されている



校舎と
富士山



インスタ映えの
忠霊塔



地元産業の
織物

学校運営協議会の概要

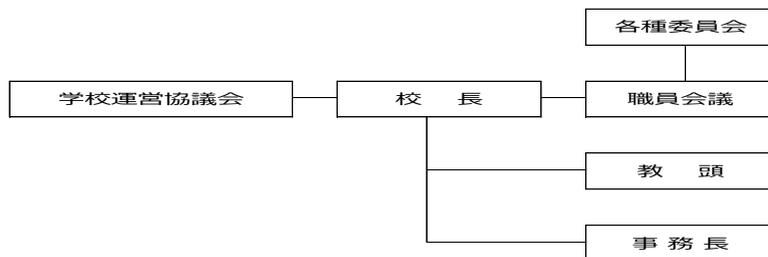
委員の構成（13名）

- ・学識経験者（2名）
- ・地域中学校関係者（2名）
- ・地域住民代表（1名）
- ・学校の運営に資する活動を行う者（1名）
- ・生徒保護者代表（2名）
- ・行政機関に係る者（1名）
- ・地域産業に係る者（3名）
- ・学校長（1名）

これまでの主な議題例

- 【令和4年度の主な議題】
- ・学校運営方針について
 - ・生徒募集について
 - ・学校評価の計画と振り返りについて
 - ・総合的な探究の時間「富士山学」について
 - ・地域と学校の協働推進事業について

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

- 令和2年度より富士吉田市商工会議所青年部と、令和3年度より富士吉田市と連携協定を締結
- 令和3年度より、地域をつなぐNPO法人「かえる舎」と連携
- 令和4年度より、地域と連携した防災教育の取組を開始



「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められているが、本校では以下のような学校運営方針の下に取り組んでいる

【吉田高校の教育の目的】（スクール・ミッション）

Yoshida PRIDEをもって未来を生き抜くことができる生徒を育成する

※ Yoshida PRIDE とは、何ごとにも自らの考えを持って主体的に臨み、他者を尊重するしなやかな心

【吉田高校の教育の目標】

吉田高校グラデュエーション・ポリシー（吉高GP）

8つの力： ①自己肯定力 ②傾聴力 ③分析力 ④思考力 ⑤発信力 ⑥想像力
⑦創造力 ⑧行動力

【学校経営目標】

学校運営協議会を通して、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や学校運営への支援・協力を得ることで、学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組む

富士山学の目標

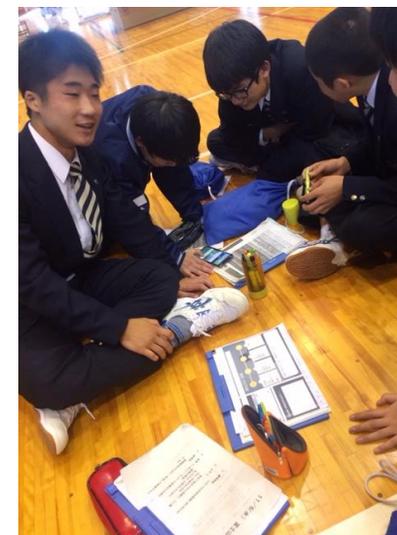
吉高GPの実現を目指し、地域における課題を解決する探究活動を展開。学校と地域が手を取り合い、生徒が各教科のものの見方・考え方を駆使しながら、自己の生きがいやあり方について考える機会を作り、生徒の優れた資質・能力の向上を目指す

富士山学のテーマ

富士北麓の自然環境・防災・街づくり・産業・芸術文化・スポーツ・国際など

富士山学（1年生）

前半：地域に関する講演会（地域の歴史や伝統、課題のインプット）等
後半：グループごとに地域に関する探究活動



フローチャートを使ったグループワーク

富士山学（2年生）

グループごとに地域に関する探究活動
地域探究活動の流れ

課題設定①⇒ 課題検証（調査・データ収集）⇒ 課題設定②
⇒ 課題探究（調査・データ収集）⇒ 課題解決に向けた活動や取組
⇒ 課題解決の検証⇒ 探究活動のまとめ



グループごとの聞き取り調査

外部との連携

- ①令和2年度より、富士吉田市商工会議所青年部と連携（再掲）
「プロジェクト223」として、令和5年度は富士吉田市商工会議所青年部から9名の方を講師に迎え、1, 2年生に地域に関する講演会を開催
- ②令和3年度より、地域をつなぐNPO法人「かえる舎」と連携
かえる舎の主な役割は学校と地域の橋渡しをするコーディネート業務と、ローカライズした教育プログラムの構築と実践

成果

- ①富士山学についてのアンケート結果
(令和5年1月～2月実施 1.2年生対象)
 - ・「富士山学の授業を自分や将来に生かした生徒」
生徒の半分以上の272名が「生かした」と回答
 - ・「地域のために活動したい生徒」
97名(授業前)⇒ 239名(授業後)に増加
- ②グループの活動
 - ・2年生：富士吉田の食文化（御師料理）を調査し、地元の小中学校で給食の献立に採用される。
 - ・1年生：子育て施設での親子向けイベントの開催



「御師料理」をテーマにした給食



「御師料理」をテーマに考案した献立の給食を試食する生徒たち

① 学校運営協議会において、富士山学の実践の経過説明

・富士山学における地域連携関係の報告

【1 学年の実践の報告内容】

7月 大学模擬授業 8月 中間発表 11月 校外学習

2月 学年発表会

【2 学年の実践の報告内容】

6月 グループ探究の企画書を作成 9月 中間発表

12月 校外学習 2月 学年発表会



先輩から後輩へのレクチャー

② 富士吉田市、富士吉田市商工会議所青年部と連携協定を締結

・団体の代表者が学校運営協議会に参画すると同時に、各担当者等が富士山学において講演等を実施

「プロジェクト223（ふじさん）」など



富士吉田市商工会議所からの講演

③ 富士山学に対する学校運営協議会の委員からの意見（抜粋）

・地域との連携として、富士吉田市商工会議所青年部と連携協定を結び様々な活動を展開しているが、さらに発展させてほしい。

・今後、織物業や観光業との連携も考えられるのではないかと。例えば、富士五湖観光連盟と連携を図り、さらに広域の団体との連携を模索することで、より広い視野を持った生徒の育成を図ることができる。

・生徒の興味・関心やニーズに応じた、富士山学のテーマ設定を行ってほしい。

～コミュニティ・スクールとして、より地域と連携するために～

⇒ 学校と地域をとりまく課題解決のための取組

※本校のある富士北麓地域は、富士山噴火による災害の危険性があり、防災意識や防災教育が求められている

⇒ 【現状】地域の防災について、学校と地域との連携体制は不十分

地域と連携した防災教育の取組（令和4年度）

- ・富士吉田市職員、富士五湖消防本部職員、地元自治会の代表者、熊本県立南稜高校職員（オンライン参加）、PTAの代表者、防災委員会代表者、本校職員による協議会を開催
- ・防災について、本校の防災計画の確認と改善、避難所開設に向けた課題点や学校と地域の連携の在り方に関して協議
- ・協議後のアンケートで、「自然災害の発生に備えて、学校と地域が一体となって地域防災に取り組むための契機となった」
⇒ 肯定的な回答：100%



協議会のあと、本校敷地内にある防災倉庫を点検する参加者

今後、学校運営協議会の仕組みを生かして、防災教育の取組をさらに推進

今後の予定及び方向性

①地域と連携した防災の取組と富士山学・学校運営協議会とのコラボ（予定）

⇒今後、吉高GPの達成につなげるために、学校運営協議会の仕組みを生かして取組の充実を図る

②富士山学における防災教育の取組（現在）

令和5年度は防災について2年生の5チームが取り組んでいる
（取組例）

「富士山新避難計画について」

「富士山噴火に対して事前にできることを広めるには」

「避難場所までの安全と防災バッグの普及」

⇒ ダイソー・ケイヨーデーツーとの協力の下、価格、重量、実用性に配慮し、地震だけでなく富士山噴火の災害に備えた防災バッグについて研究



生徒が試作した防災バッグ

③地域と連携した防災教育の取組（今後）

- ・富士吉田市防災避難訓練、富士吉田市主催の防災フォーラム（9/3）への参加（予定）
富士山学の防災グループや防災委員会の生徒が参加し、地域の取組を学ぶ

- ・学校運営協議会の委員も参加した防災ワークショップを開催（予定）

参加者：富士山学防災グループ及び防災委員会の生徒 学校運営協議会の委員
富士吉田市防災課職員 富士吉田市消防署署員 富士吉田警察署署員
陸上自衛隊北富士駐屯地隊員 地元自治会の代表者 等

内 容：富士山学の防災グループが、課題研究のプレゼンテーションを行うとともに、富士山噴火などの防災活動において高校生としてどんなことができるか協議し、防災意識を向上させる

令和5年度 7月実施学校評価アンケート質問項目(1年生徒)

■回答人数:241名(対象人数:241名)

「大いに思う」場合には「0」「ほぼ思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

■達成率=(大いに思う)+(ほぼ思う) 過年度比

問題番号	項目	質問項目	0	1	2	3	%		
							達成率(0+1)	R4年度7月	
1	生徒の知識活用力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	30.7	51.9	16.2	1.2	82.6	↑	72.0
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	51.0	42.7	5.4	0.8	93.7	↓	95.5
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	35.3	47.3	15.8	1.7	82.6	↑	81.5
4		吉田高校では、ICTを活用した授業が進んでいる。 追加項目	24.9	42.7	29.1	3.3	67.6	/	/
5		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	27.4	58.1	13.3	1.2	85.5	↑	82.8
6	生徒の主体性を高める	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	48.1	42.3	7.5	2.1	90.4	↑	80.1
7		私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	39.0	52.3	8.3	0.4	91.3	↑	83.3
8		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	47.7	48.6	3.7	0.0	96.3	↑	88.7
9	生徒の社会性を養う	旧:富士山学、探究活動などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。 新:富士山学、理数探究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	36.5	49.8	10.8	2.9	86.3	/	/
10		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	49.4	41.5	7.9	1.2	90.9	↑	81.9
11		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	32.8	56.0	10.4	0.8	88.8	↑	78.3
12		旧:吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。 新:吉田高校では、情報発信や進路ツールとしてのICTの活用が進んでいる。	32.8	53.5	12.9	0.8	86.3	/	/
13	その他	私は、節電(冷暖房を含む)・節水を実践し、環境に配慮している。	39.8	46.1	13.3	0.8	85.9	↑	84.2
14		吉田高校には、困った時に相談できるような信頼できる教員が多いと思う。追加項目	32.8	45.6	18.7	2.9	78.4	/	/
15	吉高GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	34.4	54.8	10.4	0.4	89.2	↑	81.0

分析

4:生徒の個人パソコンの購入が完了したのが7月の上旬であるため、アンケート実施の時期はCTを活用が不十分であった。今後、授業等での活用を活発にしていく。

14:入学から約3ヶ月達成率が2、3年生に比べ低いが、様々な場面を通じて生徒との関係を深めていく。

令和5年度 7月実施学校評価アンケート質問項目(2年生徒)

■回答人数:212名(対象人数:215名)

■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

「大いにそう思う」場合には「0」「ほぼそう思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

問題 番号	項目	質 問 項 目					%		過 回 比	
			0	1	2	3	達成率 (0+1)		R4年度 1月	R4年度 7月
1	生徒の 知識 活用 力を 高め る	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	19.8	58.5	21.2	0.5	78.3	↑	73.6	72.0
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	35.4	56.6	7.1	0.9	92.0	↓	94.4	95.5
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	22.2	58.0	17.9	1.9	80.2	↑	77.7	81.5
4		吉田高校では、ICTを活用した授業が進んでいる。 追加項目	24.1	55.7	17.9	2.4	79.8		/	/
5		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	25.5	61.3	12.3	0.9	86.8	↑	83.2	82.8
6	生徒の 主体 性を 高め る	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	33.5	50.0	11.3	5.2	83.5	↑	78.7	80.1
7		私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	32.1	57.1	9.9	0.9	89.2	↑	81.9	83.3
8		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	35.4	55.7	8.0	0.9	91.1	↑	90.3	88.7
9	生徒の 社会 性を 養う	旧:富士山学、探究活動などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。 新:富士山学、理数探究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	31.0	52.4	14.3	2.4	83.4	↑	79.2	41.4
10		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	34.4	50.9	12.3	2.4	85.3	↑	79.6	81.9
11		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	28.4	55.9	15.2	0.5	84.3	↑	83.3	78.3
12		旧:吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。 新:吉田高校では、情報発信や進路ツールとしてのICTの活用が進んでいる。	24.1	59.4	13.7	2.8	83.5	↑	79.6	83.7
13	そ の 他	私は、節電(冷暖房を含む)・節水を実践し、環境に配慮している。	34.9	52.4	12.4	0.0	87.3	↑	83.4	84.2
14		吉田高校には、困った時に相談できるような信頼できる教員が多いと思う。追加項目	26.9	58.0	13.7	1.4	84.9		/	/
15	吉高 GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	26.3	62.9	8.9	1.9	89.2	↑	84.7	81.0

分析

4:ITCの活用については、生徒個々のパソコンのスキルを上げるよう指導していく。

令和5年度 7月実施学校評価アンケート質問項目(3年生徒)

■回答人数:226名(対象人数:229名)

「大いにそう思う」場合には「0」「ほぼそう思う」場合には「1」
「あまりそう思わない」場合には「2」「全くそう思わない」場合には「3」

■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

問題 番号	項目	質 問 項 目					%		過 回 比			
			0	1	2	3	達成率 (0+1)		R4年度 1月	R4年度 7月	R3年度 1月	R3年度 7月
1	生徒の 知識 活用力を 高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを意識して生活している。	31.0	57.1	11.5	0.4	88.1	↑	82.1	82.1	82.7	83.6
2		吉田高校では、生徒に考えさせ、生徒が主体的に学ぶ授業がおこなわれている。	34.1	58.4	7.1	0.9	92.5	↑	87.4	89.5	90.4	92.3
3		私は、授業が楽しいと感じることが多い。	23.9	54.4	20.8	0.4	78.3	↑	68.1	69.9	65.8	76.2
4		吉田高校では、ICTを活用した授業が進んでいる。 追加項目	30.5	51.8	16.8	0.9	82.3		/	/	/	/
5		私は、授業で感じた疑問を自ら調べようとしている。	33.2	57.1	9.7	0.0	90.3	↑	86.1	90.4	86.1	89.2
6	生徒の 主体性 を高める	私は、学習と部活動を含めた諸活動との両立に努めている。(いた)	47.4	41.6	8.9	2.2	89.0	↑	86.5	84.3	83.9	89.8
7		私は、自己の任務や課題に対して、意欲的に取り組んでいる。	40.3	53.5	6.2	0.0	93.8	↑	89.4	87.8	82.7	82.8
8		私は、自分の言動に責任を持って行動している。	46.0	50.9	3.1	0.0	96.9	↑	93.5	93.4	93.9	92.3
9	生徒の 社会性 を養う	旧:富士山学、探究活動などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。 新:富士山学、理数探究などの探究活動や講演会等を通して、地域と関わりを持ち、地域の話題や課題を意識している。	30.5	53.5	15.0	0.9	84.0	↑	83.9	50.6	57.6	60.8
10		私は、部活動、生徒会行事、または学校外活動に取り組み、多くの人と関わるようにしている。	45.1	46.5	7.5	0.9	91.6	↑	88.2	90.8	85.2	92.2
11		私は、SDGsを理解するとともに、周囲への配慮や奉仕の心を持って行動できるようになった。	31.9	57.1	10.2	0.9	89.0		86.4	82.1	71.9	71.6
12		旧:吉田高校では、webを利用して積極的に各種情報を提供している。 新:吉田高校では、情報発信や進路ツールとしてのICTの活用が進んでいる。	31.4	58.0	10.2	0.4	89.4	↑	80.8	81.7	73.2	73.7
13		私は、節電(冷暖房を含む)・節水を実践し、環境に配慮している。	43.8	47.4	8.4	0.4	91.2	↑	89.4	87.8	84.0	84.9
14	吉田高校には、困った時に相談できるような信頼できる教員が多いと思う。追加項目	30.2	54.7	12.0	3.1	84.9		/	/	/	/	
15	吉高 GP	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシー(8つの力)について、高校生活の中で総合的に向上した。	33.2	60.6	5.8	0.4	93.8	↑	91.7	90.4	90.0	91.0

分析

3:R3年度1月(1年次)から達成率が70%以下であるが、3年生になり80%近い達成率になった。3年次になり、前向きに取り組もうとする生徒が増えてきた。

令和5年度 7月実施学校評価アンケート質問項目(教職員対象)

「大いにそう思う」=「0」「ほぼそう思う」=「1」
 「あまりそう思わない」=「2」「全くそう思わない」=「3」

■回答人数:(47)名(対象人数:47名)

■達成率=(大いに思う)+(ほぼそう思う)

問題番号	項目	質問項目					%		%	
			0	1	2	3	達成率(0+1)	↑ ↓	R4年度7月	
1	職管理	管理職は、リーダーシップを発揮し、適切に学校運営に当たっている。	14.9	72.3	12.8	0.0	87.2	↑	79.6	
2	生徒の知識活用能力を高める	私は、吉田高校グラデュエーション・ポリシーを常に意識している。	4.3	68.1	25.5	2.1	72.4	↓	81.2	
3		私は、生徒が主体的に参加する授業を実施している。	17.4	67.4	15.2	0.0	84.8	↓	91.7	
4		旧:吉田高校は、生徒評価を適切に行っている。 新:吉田高校は、観点別生徒評価を適切に行っている。(該当する先生のみお答えください)	17.8	68.9	13.3	0.0	86.7	↑	85.4	
5		私は、ICTを活用した授業改善を進めている。 追加項目	13.3	64.4	20.0	2.2	77.7	/	/	
6		私は、自分の授業を反省し、次の授業に反映できるように努めている。	21.7	76.1	2.2	0.0	97.8	↓	97.9	
7		吉田高校では、すべての活動に「分析し、思考し、創造し、発信する」機会を増やしている。	8.5	68.1	23.4	0.0	76.6	↓	85.4	
8	生徒の主体性を高める	身の回りに存在する課題を発見し、他者との関係の中で「傾聴し、想像を共有し、行動する」機会をつくっている。	8.7	63.0	28.3	0.0	71.7	↓	85.4	
9		吉田高校では、生徒自ら行動する態度を養っている。	10.9	63.0	26.1	0.0	73.9	↑	70.0	
10		吉田高校では、生徒に、80年の伝統を受け継ぐ一人ひとりであることを様々な行事を通じて学ばせている。	4.3	55.3	31.9	8.5	59.6	↓	62.5	
11	生徒の社会性を養う	吉田高校では、生徒に地域と関わり持つ機会を与え、地域の話題や課題を意識させるように指導している。	19.2	66.0	14.9	0.0	85.2	↓	93.8	
12		吉田高校では生徒が他者を思いやり健全な人間関係を築くことができるように指導している。	6.5	80.4	13.0	0.0	86.9	↑	78.4	
13		吉田高校では、SDGsへの学びを深めさせ、ボランティア精神を養っている。	2.1	59.6	38.3	0.0	61.7	↓	64.6	
14	その他	吉田高校では各種の「たより」やホームページで積極的に情報を提供している。	12.8	76.6	8.5	2.1	89.4	↑	87.5	
15		吉田高校では校内で節電(冷暖房を含む)・節水を実践している。	10.6	53.2	31.9	4.3	63.8	↓	68.8	
16~22	吉田高校グラデュエーション・ポリシーの8つの力について、それぞれ高校生活の中で生徒は、向上しましたか。									
16	吉高GP	① 自己肯定力 … 短所も含めて、自分を認める力	4.3	61.7	31.9	2.1	66	↓	74.3	
17		② 傾聴力 … 他者の意見を謙虚に聴く習慣	12.8	63.8	21.3	2.1	76.6	↓	89.6	
18		③ 分析力 … 事実を客観的に分析する習慣	6.4	66.0	25.5	2.1	72.4	↓	85.4	
19		④ 思考力 … 物事を鵜呑みにせず、「何故か」を考える習慣	4.3	70.2	23.4	2.1	74.5	↓	77.1	
20		⑤ 発信力 … 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える方法	8.5	76.6	12.8	2.1	85.1	↓	85.4	
21		⑥ 想像力 … 未来(結果)を考え、想像する力	4.3	70.2	23.4	2.1	74.5	↑	70.9	
22		⑦ 創造力 … 課題を解決する方法を創造する力	8.7	58.7	30.4	2.2	67.4	↓	70.8	
23		⑧ 行動力 … 自身の考えに基づき、行動する力	10.6	72.3	14.9	2.1	82.9	↓	85.5	
	働き方改革を踏まえて業務の見直しを図れましたか									
24	働き方改革	担当業務内容を再構築し、分業や協業を行っている。	4.3	55.3	34.0	6.4	59.6	↑	45.8	
25		ワークライフバランスを図るために、各自ができる具体的方策をとっている。(ICTの活用、定時退校の実践等)	4.3	34.0	57.5	4.3	38.3	↓	39.6	

分析

2.7.8.16～23:

吉高GPの取組に関しては、吉高GPが導入されて7年目となり、取組の再設定が必要になってきていると感じます。9月のカリキュラムマネジメント委員会でも議題にしましたが、学年では2か月目標と連動したGPの振り返り、係分掌では行事等の目標をGPと関連させて再設定、教科では観点別評価と関連させたGPの取組について検討を進める必要があると考えます。

5: ICTを活用した授業づくりの取組については、今年度の学力向上のための取組の3本柱の1つとなっています。後期から、各教科の公開授業が本格的にスタートしますが、ロイロノートの活用方法について等を、公開授業を踏まえての教科会議の議題として扱い、活用事例の共有を図ってほしいです。

10: 本校は素晴らしい伝統校ですが、学校の歴史や伝統について、生徒に語る機会が少ないと思います。授業やHRまた学校行事の際に、本校の歴史と伝統についてきちんと学ばせたいと思います。今年度は、学校林の下草刈作業に、昨年度より多くの先生方に参加していただいた点は評価できると思います。

13: SDGsへの学びについては、全員の先生方にSDGsの理念を授業に反映させて、その実践を報告していただくことになっています。今後は、SDGsは普遍的な教育的価値があるので、各教科の年間指導計画・評価計画にSDGsの理念や考え方を取り入れていくことが求められると思います。ボランティア活動については、ボランティア委員会を中心に、ボランティア活動、体験活動、地域の行事等へ積極的に参加を促したいと思います。

15: 節電・節水については、HR単位での啓発の他に、たとえば生徒会本部が中心となって、具体的な数値目標を掲げた上で、全校生徒に節電・節水を呼びかけ、結果をClassiで配信するなどの工夫もできるのではないかと考えています。

24.25:

働き方改革の推進は難しい面がありますが、今年度定期試験の採点日を2日間導入できたことは、前進だと思います。また、自動採点ソフトを学校として導入し、業務の効率化も進んでいます。今後、観点別評価の効果的な方法について教科をこえて共有を図ったり、大きな行事の実施効率や効果について、働き方改革を踏まえて前年度のうちから検討を始めることが肝要であると考えます。

各教科の取り組みの状況

	ICTの活用について	学力向上の取り組みについて
国語	Classiでの配信、Teamsでの共有、ロイロノートでの配付回収など各自が様々な試みをしている。 国語科として統一した活用はまだできていないので、生徒が混乱が無いようにしていく。	月1回の公開授業参観は、担当者がICTを使用している授業を行っている。参観者も良い所を取り入れるなど、有意義な取り組みになっている。
地歴・公民	Teamsによる課題等の配信 プロジェクター・Teamsのよる画面共有による映像資料の提示 TeamsやClassiのアンケート機能による意見集約	統一しての取り組みはできていないが、科目ごとに取り組んでいる。 単位数の関係から、教科書範囲の終了が常に受験直前になるため、進度の確保が最優先される。
数学	【生徒側の利用】 ロイロノートの活用/Classiによる課題の配付/「ジオジェブラ」などのグラフ作成ソフトの利用 生徒の中には「Youtube」「スタディサプリ」「東進の映像授業」などを利用して学習している生徒も多い。 【教員側の利用】 スタディエイド・デジタル教科書の活用 パワーポイントやスライドなどを利用した授業。 電子黒板の活用。	月1回の公開授業は積極的に参観し、授業の良いところを参考にしている。また、授業者にフィードバックを行い、授業力向上、学力向上に向けて取り組んでいる。
理科	【物理】 BYODで利用できるシュミレーションソフトをエクセルで開発→生徒の配付。生徒の反応もよい 【化学・生物】 ロイロノートの利用。DVDの視聴	7月（物理）8月（化学）10月（化学）で公開授業を実施。実施にあたり、できる限りICTの利用した授業で実施した。 研究協議にて、付箋を用いて授業を整理。他科目の授業を見た上でそれぞれの科目への応用を検討した。
保健体育	【生徒側の利用】 ロイロノートの活用 調べ学習を実施し、分析力、発信力の向上を目指す。 【教員側の利用】 デジタル教科書の活用、動画の視聴 パワーポイントやスライドなどを利用した授業	月1回の公開授業の実施を通して、よい点や課題点を共有して、生徒の指導に役立てる。
家庭科	ロイロノートの活用 他生徒と意見を共有し自分の考えを深めたり、レポート提出や実習作品の写真を評価し合ったりする場面で活用	理科や保健体育の授業を参観する中で、授業時や授業終了後の振り返りの活用方法を学んだ。
英語科	ロイロノートで生徒の意見集約、共有。音読テスト実施 Teamsで音読のAI採点実施 BYODを使って生徒にショートムービーを作らせた。 Classiで生徒から質問を回収し、授業で解説している。	月1回の公開授業は積極的に参観し、授業の良いところを参考にしている。 自己調整学習シートを生徒に配付し、自らの学習到達度を振り返り、学習方法を工夫させている。 教科面談を実施し、生徒の現状の聞き取りとアドバイスを行っている。
情報科	【生徒側の利用】 ライフズテックレッスンでの自学自習が可能 【教員側の利用】 パワーポイントやスライドなどを利用した授業 ライフズテックレッスンの理解度チェックワークによる生徒の理解度の確認。	教員が情報科の研修に参加して、指導方法を学んでいる。

校則の見直しについて

○昨年までの経緯

- ・令和4年度4月の生徒総会で、生徒から校則見直しの要望が出た。
- ・校則協議会が発足し、校則の見直しについて協議されたが、校則の見直し案は極端なものがあり、生徒と教員間のずれが大きく、検討が進まなかった。
- ・最終的に、令和4年度10月の生徒総会で、学校への要望をまとめて提出し、令和4年度の校則協議会の活動を終了した。

○令和5年度校則協議会

【教員】 教頭（野澤）、生徒指導主事（藤城）、生徒会主任（萱沼）、
若手教員3名（野中、北村、渡邊浩）

【生徒】 生徒会長（中島優斗さん）、副会長2名（小山田彩生さん、仁科幸大さん）、マナーアップ委員長（宮下十翔さん）、各学年理事代表3名（3年2組藤井菜々子さん、2年6組岡山さくらさん、1年6組木村涼飛さん）

計13名で構成

○これまでの協議の流れ

- | | | |
|------|-----------|--|
| 第1回 | 6月15日（木） | ・顔合わせと方針の確認 |
| 第2回 | 7月10日（月） | ・要望事項に対する意見の出し合い |
| 第3回 | 7月24日（月） | ・要望事項（スマホ以外）に対する意見の出し合い |
| 第4回 | 8月1日（火） | ・職員会議に提案する原案の検討と確認 |
| 職員会議 | 8月22日（火） | ・校則の見直し一号案を検討。靴下の色、ジャージ登下校、ジャージでの自習室使用には異論あり |
| 第5回 | 9月20日（水） | ・頭髪、スマホ等に対する意見の出し合い |
| 第6回 | 9月29日（金） | ・HRでの話し合いで出てきた意見の検討と確認 |
| 職員会議 | 10月11日（水） | ・校則の見直し第二号案を検討。ジャージ登下校、ジャージでの自習室使用には賛否両論あり。頭髪、スマホについては、継続審議とする。 |
| 生徒総会 | 10月27日（金） | ・校則の見直し第二号案を大筋で承認 |
| 第7回 | 11月2日（木） | ・職員会議に提案する原案の検討と確認 |
| 職員会議 | 11月8日（水） | ・校則の見直し第三号案を大筋で承認。ジャージ登下校は承認、ジャージでの自習室使用は不承認の意見多数、頭髪、スマホについてはマニュアル作成のうえ、継続審議とする。 |
| 第8回 | 11月21日（火） | ・職員会議の意見を踏まえ最終案について検討、スマホと頭髪のマニュアルについて検討、12月の全校集会での報告事項の確認、スマホ・頭髪試用期間について検討 |

○検討内容

(校則協議会→職員会議→(生徒総会)で協議)



1 靴下の着用における規定の見直し

- ・ 現行：ソックスは白色とする。
- ・ 新案：黒 紺 白 グレー 茶色（単色、ただしマーク・ラインはワンポイントとする）
なお、式典時に際しては男女ともに黒・紺で統一
くるぶしソックスについては普段については認可とし、式典時には男子は着席したとき
に素肌が見えない長さ、女子はミドル丈ソックス

2 ジャージ登下校の認可

- ・ 現行：下校時は制服での下校をする。
- ・ 新案：部活動終了後、および朝練習登校時には学校ジャージおよび部活動ジャージの着用についても認可とする。

3 学校・部活動ジャージでの自習室の利用の許可

- ・ 本校生徒と侵入者の区別がつかないという防犯上の理由から、協議会生徒メンバーたちの最終検討により見送り。

4 男女間の校則の差・ジェンダーギャップの解消

- ・ 賛成とし、この方向で進める

5 スマートフォンの利用について

- ・ 一覧表にして分かりやすく提示することが決まり、その内容について検討中。

6 ウィンドブレーカーの年間着用について

- ・ 賛成とし、この方向で進める。

7 頭髪規定の見直し

- ・ 基本方針→『清楚かつ清潔感のある頭髪』
- ・ イラスト入りの『吉田高校さわやかマニュアル』を作成して分かりやすく提示することが決まり、そのマニュアルの内容について検討中。

○今後の予定

- ・ 靴下、ジャージ登下校、ウィンドブレーカーの年間着用 → 令和6年1月から実施予定
- ・ スマホ、頭髪→令和6年1月～3月に試用期間、検討 → 令和6年4月から実施予定

ポロシャツの導入について

○制服検討委員会

【教員】 教頭（野澤）、生徒指導主事（藤城）、生徒指導副主任（小河内）、生徒会副主任（渡邊勇）、
若手教員 2 名（小川、宮川） 合計 6 名

○昨年度のポロシャツ導入への動き

- ・後期生徒総会で生徒会本部のポロシャツ導入案が承認
- ・生徒評議会で生徒の要望を確認→白・紺

○昨年度の生徒評議会への生徒会提案事項

- ・白と紺、左胸元に小さい校章、ポロシャツは希望する人のみ、儀式は制服

○今年度の経過

- | | | |
|------|----------------|--|
| 4 月 | 職員会議・生徒総会 | ・職員会議で校長がポロシャツ導入を表明。
生徒総会で、ポロシャツを導入することを生徒に伝える。 |
| 5 月 | 業者と打ち合わせ | ・サンプルを依頼、価格帯を確認 |
| 6 月 | 業者と打ち合わせ | ・サンプル確認、ボタンダウン・胸マークが見栄えが良い、
胸マーク 3 点提示あり |
| 6 月 | 制服検討委員会 | ・7 月に提案するポロシャツの形と色を審議、業者と打ち合わせ |
| 7 月 | 運営委員会・職員会議 | ・ポロシャツの形・色、胸マークのデザイン（3 点）を提案 |
| 7 月 | 生徒にポロシャツの形 | ・色、胸マークのデザイン（3 点）を提示、胸マークのみを投票 |
| 8 月 | 運営委員会・職員会議 | ・ポロシャツの形・色・胸マークのデザインを審議 |
| 9 月 | 運営委員会・職員会議 | ・最終決定案 |
| 10 月 | 職員会議 | ・胸マーク B 案に決定 |
| 11 月 | 職員会議 | ・胸マーク入りポロシャツ試作品披露 |
| 11 月 | 規定・便覧の文言を手直し着手 | |
| 12 月 | 学校運営協議会 | |

○今後の予定

- | | | |
|------|-----|--------------------------------|
| R6 年 | 1 月 | PTA 理事会で報告
現 1・2 年生の注文とりまとめ |
| | 3 月 | 新入生の注文とりまとめ |
| | 5 月 | 納品 |

令和6年度公立高等学校入学者募集定員の概要
(全日制課程)

1 募集定員 5,080人 (前年度比 80人減)

2 普職総構成比率 普 61.10% 職 22.99% 総 15.91%
(前年度 普 60.93% 職 22.71% 総 16.36%)

3 学科別募集定員 ()は内数

学 科 名		R06年度	対前年度増減	R05年度
		募集定員	募集定員	募集定員
普通 科	学 年 制	2,114	△ 35	2,149
	(コース)	(190)	(0)	(190)
	単 位 制	795	△ 5	800
	小 計	2,909	△ 40	2,949
理 数 科		80	0	80
文 理 科		30	0	30
英 語 理 数 科		25	0	25
探 究 科		60	0	60
総 合 学 科		808	△ 36	844
農 業 科		206	0	206
工 業 科		590	0	590
商 業 科		372	△ 4	376
合 計		5,080	△ 80	5,160

4 学校の新設による募集開始及び学校の統廃合等の予定による募集停止

- (1) 学校の新設による募集開始 なし
(2) 学校の統廃合等の予定による募集停止 なし

5 募集定員の増減

(1) 募集定員が増加した高校 なし

(2) 募集定員が減少した高校 10校

北杜高校(総△4人) 甲府東高校(普△12人) 甲府城西高校(総△4人)
 笛吹高校(総△5人) 塩山高校(普△3人、商△4人) 都留高校(普△5人)
 上野原高校(総△11人) 都留興譲館高校(普△8人) 吉田高校(普△12人)
 富士北稜高校(総△12人)

学 校 名	学 科 (コ ー ス) 名	定 員	計	前期募集人員	計
都 留	普通科	175	175	35	35
上 野 原	総合学科	85	85	17	17
都留興譲館	普通科	72	193	21	56
	英語理数科	25		7	
	※工業科(機械工学科・電子工学科・ 制御工学科・環境工学科)	96		28	
吉 田	普通科	188	228	37	43
	理数科	40		6	
富士北稜	総合学科	222	222	77	77
富士河口湖	普通科	160	160	32	32
甲府商業	商業科	165	260	82	129
	情報処理科	95		47	
甲 陵	普通科	80	80	※	※
合 計			5,080		1,633

(注)1 定員欄及び前期募集人員欄の[]は、普通科のコースの定員であり、当該普通科の募集定員の内数である。

- 2 韮崎工業高校は、工業科六学科を一括して募集する。
- 3 青洲高校は、工業科二学科、商業科二学科をそれぞれ一括して募集する。
- 4 塩山高校は、商業科二学科を一括して募集する。
- 5 都留興譲館高校は、工業科四学科を一括して募集する。
- 6 甲陵高校は、県立高校(甲府商業を含む)とは異なる独自方式による入試を実施する。同校の前期募集人員は、甲陵高校が定める。

令和6年度山梨県公立高等学校入学者募集定員

【全日制課程】

学 校 名	学 科 (コ ー ス) 名	定 員	計	前期募集人員	計
北 杜	普通科	80	170	32	77
	うち理数コース	[25]		[10]	
	総合学科	90		45	
韭 崎	普通科	196	226	58	67
	文理科	30		9	
韭崎工業	※工業科(電子機械科・電気科・情報技術科・ 環境化学科・システム工学科・制御工学科)	154	154	61	61
甲府第一	普通科	160	220	24	42
	探究科	60		18	
甲府西	普通科	200	200	60	60
甲府南	普通科	188	228	28	40
	理数科	40		12	
甲府東	普通科	228	228	22	22
	うち理数コース	[40]		[4]	
甲府工業	機械科	80	280	40	140
	電気科	80		40	
	建築科	40		20	
	土木科	40		20	
	電子科	40		20	
甲府城西	総合学科	246	246	110	110
甲府昭和	普通科	228	228	45	45
農 林	システム園芸科	29	146	11	56
	森林科学科	29		11	
	環境土木科	29		11	
	造園緑地科	29		11	
	食品科学科	30		12	
巨 摩	普通科	195	195	78	78
	うち理数創造コース	[40]		[16]	
白 根	普通科	130	130	52	52
	うち文理コース	[30]			
青 洲	普通科	140	270	42	94
	※工業科(機械工学科・土木工学科)	60		24	
	※商業科(ビジネス探究科・ビジネス情報科)	70		28	
身 延	総合学科	80	80	40	40
笛 吹	普通科	80	225	24	96
	食品化学科	30		15	
	果樹園芸科	30		15	
	総合学科	85		42	
日 川	普通科	200	200	80	80
山 梨	普通科	142	142	42	42
	うち英理総合コース	[30]			
塩 山	普通科	67	109	26	42
	うち英数コース	[25]		[10]	
	※商業科(商業科・情報ビジネス科)	42		16	

令和5年度 部活動 顧問一覧

文化局

部名		顧 問 名	
写 真	○ 古賀 直行 宮下 昇		
美 術	○ 古屋 直子 辻 もえ子		
放 送	○ 島袋 あゆみ 畠山 尚也		
音 楽	○ 徳満 裕樹 萱沼 徳重		
吹奏楽	○ 小佐野 拓 外川 綾乃	(広瀬)	
書 道	○ 野中 萌美 小川 由希子		
数 理 部	数学班 ○ 田村 貞文	左記は代表者 教科でバック アップ	
	物理班 ○ 宮下 一幸		
	化学班 ○ 小松 秀幸		
	生物班 ○ 奥山 幸司		
茶 道	○ 志村 和美 米山 直美		
華 道	(休部)		
箏 曲	○ 羽田 あゆみ 齋藤 めぐみ		
社会研究	○ 畠山 尚也 望月 優斗		
囲碁・将棋	○ 堀内 寛子 小佐野 寛	(生徒会)	
E S S	○ 小林 美樹 小佐野 紗和子		

生徒会 ○萱沼 渡邊勇 (藤城)(小河内)
齋藤 古賀 三浦 徳満 赤池

文化局 13部 (うち、休部1)

体育局 21部 (うち、休部2)

合 計 34部 (うち、休部3)

体育局

部名		顧 問 名	
陸 上	○ 北村 春菜 河野 伸哉		
野 球	○ 渡邊 迪太 三浦 有暉	奥山 幸司	
剣 道	○ 小山田 豊和 小川由希子		
サッカー	○ 小河内竜之介 徳満 裕樹		
★ スケート	○ 在原 綱樹 外川 綾乃		
柔 道	○ (休部)		
ハンド(男)	○ 藤城 真	} 舟久保 豊	
ハンド(女)	○ 田村 貞文		
ラグビー	○ 藤原 剛 中村 裕介		
卓 球	○ 赤池 和佳奈 羽田 あゆみ	(生徒会)	
バスケ(男)	○ 渡辺 浩一	} 野中 萌美	
バスケ(女)	○ 渡辺 文章		
バレー(男)	○ 村松 親志	} 齋藤 めぐみ	(奥山)
バレー(女)	○ 宮下 一幸		
ソフトテニス(男)	○ 宮川 卓大	} 小佐野紗和子	
ソフトテニス(女)	○ 望月 優斗		
ボ ー ト	○ 萱沼 徳重 広瀬 庄一		
★ ヨット	○ 天野 喬文 遠藤 威吹		
☆ 弓 道	○ 土屋 政統 小松 秀幸		
☆ ウエイト	○ 渡邊 勇人 藤田 晴彦		
山 岳	(休部)		

山梨県高等学校強化指定部、★男女指定、☆男子指定、◎女子指定

※上記、部活動以外の種目の校外活動について

- ・規程類集(生徒会部関係 P10)に定めるところにより、認めるものとする。
- ・担当顧問は該当生徒が所属する学年の職員を基本とする。

令和5年度 第2回吉田高等学校運営協議会座席表

令和5年12月1日(金)
13:30~
吉田高校朝日子ホール

舞台

議長

司会

鶴田委員

堀内委員

井出委員

栗井委員

中村委員

萱沼委員

高村委員

渡邊委員

高保委員

梶原委員

学校職員席

権太委員

出入口

令和5年度 第2回吉田高等学校学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年12月1日（金）
- 2 場 所 吉田高等学校朝日子ホール
- 3 時 間 13時30分より15時40分
- 4 参加委員 11名（敬称略）
鶴田 清司（会長）、中村 義仁、高村 明成、高保 裕樹、堀内 淳、
栗井 晶子、萱沼 孝夫、渡邊 太郎、梶原 正彦、権太 正弘（校長）
- 5 次 第 司会 野澤 俊英（教頭）
 - (1) 開会の言葉（司会）
 - (2) 学校長あいさつ
 - (3) 学校運営協議会会長あいさつ
 - (4) 報告事項
 - 1 教育活動報告
 - ① 理数科「理数探究」発表会について（理数科主任より）
 - ② 学園祭「蒼風祭」について（生徒会主任より）
 - ③ 部活動関係（関東大会、全国大会）について（生徒会主任より）
 - ④ 富士山学（総合的な探究の時間）における地域連携関係について（総合研修主任より）
 - ⑤ 地域と連携した防災教育の取組について（教頭より）
 - 2 地域とともにある学校づくり推進フォーラム（文科省開催）について（教頭より）
 - (5) 議事（議長 鶴田清司会長）
 - 1 令和5年度第1回学校評価報告と第2回学校評価に向けての対応（総務主任より）
 - 2 校則の見直しについて
・校則協議会からの提案及びポロシャツの導入について（生徒指導主事より）
 - 3 令和6年度教職員の採用及び任用について（校長より）
 - (6) 連絡事項
 - 1 次回学校運営協議会開催日について
 - 2 その他
 - (7) 閉会の言葉（司会）

6 議事録

(1) 校長挨拶

- ・コロナ感染が収束しつつあり、教育活動が戻ってきている。6月30日と7月1日の蒼風祭では生徒の活発な活動が見られた。野球部は甲子園大会県予選で順調に勝ち進み、全校応援を実施した。県大会でベスト8以上に食い込む力があり、現段階で「21世紀枠候補校」に選考されている。富士登山強歩大会もPTAの協力を得て4年ぶりに実施できた。2年生は11月に沖縄修学旅行を実施することができた。学校行事が普通にできる

ことの喜びを感じている。

- ・昨年度から校則の見直しに取り組んでいる。生徒から多くの意見が寄せられ、「校則協議会」や「制服検討委員会」を立ち上げ、生徒と教員が意見を出し合いながら校則を生徒自らつくり出そうとしている。自分たちでルールを考え、結論を出していくことの意義を認識してほしいと考えている。
- ・本日の協議会で様々な意見・提言をいただき、今後の学校経営に生かしていきたい。

(2) 学校運営協議会会長あいさつ

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、学校生活が戻ってきたようで良かったと思う。本日は活発な議論をお願いします。

(4) 報告事項

1 教育活動報告

①理数科「理数探究」発表会について

理数科主任の藤原より、10月11日(水)・18日(水)に本校で実施された理数科「理数探究」発表会について報告がされた。理数科2年生が夏休みを利用して、地元の企業や研究所、大学に赴き真摯に研究に取り組んだこと、静岡県立富士高校理数科が発表にリモートで参加したこと、栗井英朗環境財団から助成を受けていることなども報告された。

②学園祭「蒼風祭」について

生徒会主任の萱沼より、6月30日(金)と7月1日(土)に行われた学園祭「蒼風祭」について報告がされた。コロナ感染防止のため、ここ数年行われていなかった模擬店が今年は実施できて大変良かったこと、来年度は土曜日を一般公開にして一層盛り上げていきたいことなどが報告された。

③部活動関係(関東大会、全国大会)について

生徒会主任の萱沼より、部活動実績について報告がされた。全国大会では自転車競技部やウエイトリフティング部が素晴らしい実績を残しており、かごしま国体で優勝した陸上競技部選手の活躍が一層期待されることが報告された。

④富士山学(総合的な探究の時間)における地域連携関係について

総合研修主任の村松より、富士山学について報告がされた。1学年は、地域を学ぶ学ぶこと(インプット)に主眼が置かれ、富士吉田市役所との協力による地域に関する講演会の実施、富士吉田商工会議所青年部から派遣された講師による事例研究会、地域の大学講師による模擬授業、地域の企業や諸機関での地域学習など多くの取組について詳細に説明がなされた。2学年は、発表(アウトプット)に主眼が置かれ、地域の課題についてグループごとに探究テーマを設定し、プレゼンテーションを2月7日(水)に行うことが説明された。グループで地域を調査、富士吉田商工会議所青年部講師による事例研究会等が行われたことも報告された。さらに、学校と地域のコーディネーター役であるNPO法人「かえる舎」と令

和3年度より連携し、地域の課題解決に取り組んでいることが教頭の野澤より加えられた。

(説明後)

⑤地域と連携した防災教育の取組について

教頭の野澤より、学校と地域が一体となって防災教育に取り組み、防災の意識を向上させ、地域を大切にすることを目的とする取組が本校で12月10日(日)に実施されることが発表された。文科省の安全教育調査官から講評を頂くことになっている。

(説明後)

委員：富士山学は、いわゆる人間教育である。倫理教育や道徳教育の要素もあり、自分自身を振り返ることができる素晴らしいものだと考える。1年次は、生徒たちは文理選択に悩む時期だととらえているが、将来を見据えてこの時期に様々なことに挑戦して、自分のことについてよく考えることが大切である。そして、思考力を向上させてほしいと考える。

事務局：多くのことを吸収ながら自らの振り返りができるよう、また、思考力が一層高められるよう改善を図っていきたい。

委員：総合的な探究の時間は、積極的に取り組んでいる生徒もいれば、とりあえず課題に取り組んでいるといった消極的な生徒もいることを聞いた。多くの講師を招聘して工夫されているようだが、活かされていなくていいところもあるようである。富士山学の時間は地域の発展に特化しているものの、ほとんどの生徒は進学をして、この地域から出ていくのが現状である。昨今の世界情勢の動きを生徒たちは目の当たりにし、日々驚き、多くのことを感じとっていると思うが、どうしたら地域の発展につながるのか、どのようにしたら地域の課題が解決できるか是非ともご指導していただきたい。

事務局：多くの先生方と協力して、そのように指導していきたい。

委員：山梨県の「総合的な探究の時間に係る研究会」に所属しているが、多くの学校がその指導に苦慮している。やはり、高校卒業後に地域を出ていった人材が戻ってくるようにすることが何よりも大切である。どのようにすれば解決できるか、私自身も努力して支援していきたい。

委員：私どもの富士吉田商工会議所青年部は、数年前から吉田高校の富士山学に携わるようになったが、この期間に「富士山学」は確実に進化したと思う。生徒も本当によくやっており、富士山学を通じて生徒が成長していると感じる。

- 2 地域とともにある学校づくり推進フォーラム（文科省開催）について
野澤教頭より、7月15日（土）に茨城県庁で行われた「地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2023 茨城」について報告があった。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体化は、学校運営の強化や学校の教育目標の実現のみならず、地域の課題解決や地域づくりのために欠かせないものであることが確認された。

（5）議事

- 1 令和5年度第1回学校評価報告と第2回学校評価に向けての対応
総務主任の志村より、令和5年度7月に実施された学校評価アンケート結果について説明がされた。吉高GP（グラデュエーションポリシー）導入7年目となりこの取組の再設定の必要性、ICTを活用した授業づくりが今年度の学力向上のための3本柱の1つになっていること、学校の歴史・伝統について生徒に語る機会が少ないこと、SDGsの理念を各教科の指導計画・評価計画に取り入れていく必要があることなどが報告された。さらに、各教科でのICT活用の具体的活用例や学力向上のための具体的取組が示された。

（説明後）

委員：学校評価アンケート（教職員対象）の質問事項25番は、「ワークライフバランスを図るために、各自ができる具体的方策をとっている。」から「ワークライフバランスを図るために、ICTの活用や定時退校実践など各自が具体的方策を取りやすい環境になっている。」と文言を変更すべきである。

事務局：ご指摘ありがとうございます。そのように改めます。

委員：最近気になっているのは、生徒の机上のことである。ノート型パソコンや教科書を机上に置き、しかも板書もノートにとらなければならない。なんとかならないだろうか。生徒の机の上が狭いのではないか。ひと工夫必要であろう。机上にボックスのようなものを置いて立体化することにより解決できるのではないか。ICT化を推進するうえでも是非ともお願いしたいところである。保護者としての要望でもある。

事務局：ご意見ありがとうございます。予算の許す範囲で検討していきたいと思います。

（質疑応答後）

令和5年度第1回学校評価報告と第2回学校評価に向けての対応について承認された。

2 校則の見直しについて

・校則協議会からの提案及びポロシャツの導入について

生徒指導主事の藤城より、校則の見直しについて、昨年までの経緯、令和5年度校則協議会の流れ及び検討内容を説明がされた。その後、ポロシャツの導入について昨年度の動き、今年度の経過及び今後の予定が説明された。

(説明後)

委員：校則の見直しについては大きな前進であり、とてもうれしく感じている。卒業した生徒たちもこの見直しに向けて一生懸命取り組んできた。そのことを私は見てきている。このことは先生方もご理解いただきたい。ただ、決まりがなぜそうなるのか、何を基準にしていくかについては生徒に対して説明が必要であろう。外務省には国際儀礼プロトコルがあり、具体的な服装規定がある。これらのことも参考にさせていただき、ガイドラインのようなものを作成することが必要ではないか。このことを通じて、社会人の常識等も学ばせることになるのではないか。

(質疑応答後)

校則の見直しの方向性について承認された。

3 令和6年度教職員の採用及び任用について

権太校長より、令和6年度教職員の採用及び任用について説明がなされた。本校の教員配置の課題（教務主任や教務副主任、理数科担任等の若返りの必要性、子育て世代の教員確保の難しさ、教職員の高齢化等）について説明がされた。

(説明後)

委員：理数科担任は相当なストレスを負って業務をこなしている。現在の理数科担任は3人全員が数学の教員で、これまでも数学教員がほとんど担ってきたが、こういった状況が続くことは理数科として好ましくないのではないか。担任も様々な職務を遂行し視野を広めるべきである。英語もしくは国語の教員なら、担当授業の関係で全ての生徒に目が届くため、理数科担任として相応しいのではないか。英語の指導力を特段に備えている人に担任なっていただきたい。

委員：40代の先生が少ないようだ。吉高生は真面目で良い生徒が多い。新任の先生を積極的に招いてその先生を育てていくことも大切だと考える。若いうちに吉田高校に来ていただき、本校で教員として成長してもらい、その実力を次

の異動先で発揮してもらいたい。若いうちに吉田高校に赴任すれば、教員として成長できるという人材育成を行い、若い教員を集めてほしい。

校長：その通りである。理数科は宿泊学習会もあるので、男性教員だけでなく女性教員も必要で、活躍が期待されている。女性の英語教員確保が必要かもしれない。多くの教員が吉高で教え、育っていくというご意見を活かしていきたい。

4 その他

委員：一つ要望がある。それは防犯対策についてである。犯罪も多様化してきている。防犯対策の見直しを図った方が良い。以前吉高は校門が閉められていたと聞いたことがある。

校長：先日、ある保護者の方からもそのような意見があった。本校は、防犯対策には取り組んできているが、意見交換をして防犯対策の方向性を見出していきたい。

委員：次回の協議会で、今年度設置した高習熟クラスについての様子を窺いたい。

校長：次回の協議会で報告したい。

(6) 連絡事項

- 1 次回学校運営協議会開催日について
事務局が次回学校運営協議会開催日について

以上